

# 課題No.1

## 土地利用型法人の経営戦略の策定と 持続的経営の展開



計画期間：令和5年度～令和7年度

対象：農事組合法人おおぬき彩土里ファーム

# 農事組合法人 おおぬき彩土里ファームについて

- 大貫長根営農組合の担い手が、令和3年8月に法人化
- 大崎市田尻を中心に営農
- 役員6人、組合員20戸
- 代表理事1人（40代）、理事4人（60～70代）、  
監事1人（70代）
- 経営面積 約80ha  
(主食用米 33.4ha、飼料用米 4.7ha、WCS 4.0ha、小麦  
10.2ha、大豆 23.6ha、牧草 5.0ha)

# 対象法人における現状及び課題

- 法人化時の計画とは異なる営農体系（牧草作業委託）
- 条件が良くないほ場（開田）が約10ha
- 構成員の高齢化と若い担い手の不足
- 繁忙期が集中しており、特に冬場の仕事がない
- 法人としての所有機械が少ない
- 複式簿記が不慣れな役員が多く、決算書の見方について懸念がある
- 経営品目別の収支について把握していない

# 課題の背景

## ○法人運営の課題

- 継続的な事業計画の検証と見直し
- 営農の仕組みづくり
- 決算書等から経営状況を把握するスキルの習得
- 代表理事は40代と若手だが、ほかの中心的な理事や組合員は60～70代。将来の担い手確保に向けて、周年作業の平準化と収益向上が必要

# 課題の背景

## ○栽培技術に関する課題

- 水張りできない開田（約10ha）の今後の活用方法の検討
- さつまいも試験栽培（12a）に係る技術的な支援
- 小麦作付け開田での、強害雑草が繁茂（ワルナスビ）対策

# 定性的目標

- 周年作業平準化及び所得の安定確保に向けた高収益作物の導入が検討される。
- 法人の経営状況を把握し、今後の経営改善に活かすことができる。

# 定量的数値目標

新規導入品目数

R4 : 0 → R5 : 1 → R6 : 1 → R7 : 2

牧草

牧草

牧草  
+  
さつまいも？

# これまでの活動内容①

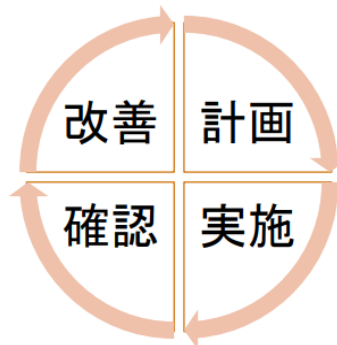
## ○経営管理能力向上支援

### 経営管理研修会の開催

- 計4回、役員を対象に、TAC※と協力して、法人経営に関するポイント（財務諸表について、経営計画策定の必要性など）について研修会を開催した。
- 貸借対照表及び損益計算書の見方を学び、事業計画の策定及び見直しの重要性について理解を深めた。  
→農業経営改善計画を見直し、計画的な農業機械導入に向けた経営基盤強化準備金の積立を開始した。



## 経営とは何か②



## 決算書とは③

決算書は具体的に何を指すか

財務三表

- ①貸借対照表 (B/S = Balance Sheet)
- ②損益計算書 (P/L = Profit & Loss Statement)
- ③キャッシュフロー計算書 (C/F = Cash Flow Statement)

- ④販売費及び一般管理費
- ⑤製造原価報告書
- ⑥株主資本等変動計画書
- ⑦固定資産台帳、減価償却費明細書

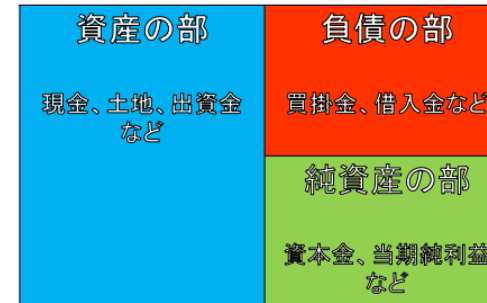
➡ (③以外は)すべて総会で出されている資料です

## 貸借対照表とは

特定の日現在で、財産や借金がどれくらいあるかを示す  
→今の財政状況を明らかにするもの

貸借対照表

貸借対照表		貸借対照表	
科目	金額	科目	金額
現金及び預金	13,794,000	買掛金	8,338,000
債権	4,433,000	貸倒引当金	8,338,000
固定資産	2,000,000	負債	16,676,000
固定負債	120,000	買掛金	14,400,000
固定負債	8,782,000	買掛金	1,800,000
固定負債	8,782,000	買掛金	22,638,000
固定負債	700,000		
固定負債	1,000,000		
固定負債	1,000,000		
固定負債	437,000		
固定負債	100,000		
固定負債	300,000		
固定負債	22,638,000		





# これまでの活動内容①

## ○経営管理能力向上支援

## 営農管理支援

- 計2回、役員を対象に、「水田を活用した露地園芸品目導入の手引き」を活用したり、露地園芸に活用可能な事業を紹介したりするなど、今後の開田の活用方法について、普及センターとJA両者から助言した。
- 今後の開田の活用について検討が開始された。

水田を活用した  
露地園芸品目導入の手引き  
(第3版)

令和5年4月

宮城県農業・園芸総合研究所 情報経営部

宮城県農業・園芸総合研究所 令和5年4月

### 水田を活用した露地園芸品目導入の手引き (第3版)

品目: サツマイモ 1ha 規模

**栽培と管理**  
- 水田や水田の作業との兼ね合いの計画が可能。  
- 近年、甘みが濃くおろりとした食感の品種のさつまいもがブームになり、販路拡大をほめた加工・業務用需要として高い人気がある。  
- 栽培・収穫に労力がかかる。  
- 長期間の貯蔵が必要。キュアリング処理が必要。  
- 収穫後、調整が大気中の乾燥時期にずれ込まないよう、品種の設定や労働力の確保等を工夫する必要がある。

**栽培スケジュール**

作業	時期	作業内容
定植	5月上旬	3人×5日/1ha
除草	5月中旬~7月中旬	1~3人×4日/1ha
収穫	8月中旬	3人×2日/1ha
選別・出荷	8月中旬~9月中旬	3人×2日/1ha
貯蔵	10月中旬~12月下旬	3人×2日/1ha
出荷	12月下旬	3人×2日/1ha
後作	11月下旬	1人

**収量**  
- 10月収穫: 10t/ha  
- 11月収穫: 10t/ha

**コスト**  
- 1人/ha: 10人/ha

**収入試算 (参考例) 10aあたり**

項目	金額
販売収入	294,000
固定費	78,000
変動費	3,107
粗利益	212,893
固定費	2,319
変動費	17,351
粗利益	45,900
出荷販売費	8,720
採算	102,144

**収入試算 (参考例) 10aあたり**

項目	金額
販売収入	294,000
固定費	78,000
変動費	3,107
粗利益	212,893
固定費	2,319
変動費	17,351
粗利益	45,900
出荷販売費	8,720
採算	102,144

**収入試算 (参考例) 10aあたり**

項目	金額
販売収入	294,000
固定費	78,000
変動費	3,107
粗利益	212,893
固定費	2,319
変動費	17,351
粗利益	45,900
出荷販売費	8,720
採算	102,144

品目	補助対象	補助率	補助額	備考
産地生産基盤 パワーアップ 事業のうち園 産シニア対応 策(園芸作物 等)	・農協、農事組 合法人、農地所 有者組合等 (生産者団体化・技術支援) ・加工・業務用需要の期待に応じた に必要な農機具等、手元・労務 調整等の設備のリース購入 (新規活用生産資材の導入) ・野菜の生産拡大に必要な生産性 マルチの導入	1/2以内 補助上限5,000万円		-たまねぎ、ブロッコリー、 ねぎ、ほうれんそう、かぼ ち、にんじん、えだまめ の輸出振替または輸出所 需の占める割合が25% 以上となること 3年後までに年間販売金額 が500万円以上増加
みやぎの企業 経営等整備 モデル事業	・農協に本店を 有する農地所 有者組合等 (付加価値向上支援) ・機械導入等(汎用性の高い機械等 を除く)	1/2以内 補助上限1,000万円		3年後までに年間販売金額 が500万円以上増加
果実作物サブ プライゼーション 構築事業	・生産者組合(法 人)・実業者 関係機関を全 て含むグルー プ及び構成組 織 (ハード ・生産、出荷調整、加工、流通の 関係機関を全 て含むグルー プ及び構成組 織) (ソフト ・流通・販路開拓・研修・販路 開拓)	1/2以内 補助上限2,500万円		生産量及び販売金額が 10%以上増加かつ販売 金額が1,000万円以上増 加する等の条件を満たし た強化計画を策定し、備 の認定を受けること
産地発展促進 事業	・農協、集落営 農組織及びそ の他の営農集 団 (ハード ・産地発展に必要な機械導入等 (ソフト ・流通・販路開拓(生産拡大、販路促進の ための活動等)※ハードと一体的に 行う計画に限る ・ばいりし補償費(産地拡大分)	1/2以内 補助上限500万円		3年後までに作付面積、 10a当たり収穫量、販路開 拓のいずれかが10%以上増加
園芸特産重点 強化事業 (作付面積開拓 補助)	・農協、農業法 人、任意組合 戸以上等 (ハード ・産地強化の体勢整備及び販売開 拓に向けた取組に必要な経費(ハード と一体的に行う取組に限る)	1/2以内 補助率1/3以内		・市町村により異なる ・事業特産品がみやぎ園 芸特産品振興プログラムに おける各産品の重点振興 品目であること
農地耕作条件 改善事業(高収 益作物導入)	・市町村、園 芸法人等 (ハード ・定額・反当拡大、圃場排水、湧水乳 理、農土等 ・定率・圃場排水、土壌改良、区画 整理等	1/2以内 定額		ハード事業費が200万円 以上であること

※補助率については、内容が異なる場合がありますので、補助の開始前にご確認ください。  
-<問い合わせ先> 宮城県 農政部 園芸推進課 電話 022-211-2843

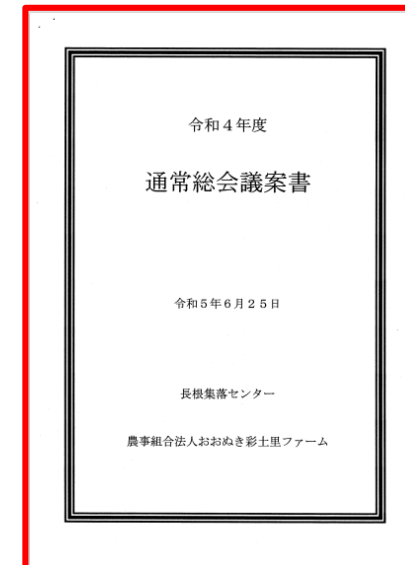
# これまでの活動内容①

## ○経営管理能力向上支援

### 総会開催支援

- 計3回、役員を対象に、総会資料の記載事項や進行、組合員に説明すべきポイントについて助言した。
- 総会（6/25開催）において、役員が組合員に対して経営状況や事業計画について説明し、無事に終わることができた。

→今後の事業展開として、利益剰余金を  
経営基盤強化準備金として積み立て、  
農業機械の導入を進めていくことについて  
組合員から理解を得ることができた。



1号議案 令和4年度事業報告 日：令和5年5月1日 頁：令和6年4月30日

令和4年度の農業経営は社会経済が新型コロナウイルス感染症の影響を中心として大きく  
を見守る中で、秋の収穫は域内に上昇したものの、前年までの大幅な下落の水準に持ち戻したと  
評定には困難を感じていると分析した。  
大豆は7月の大雨による一部洪水被害が収束し、収入減少に苦戦していました。

目次	内 容	議 案
令和4年	5/1～2 代議者	
	5/4～10 総議決	
	5/17～18 大豆集荷	
	5/18～20 大豆肥料散布・総議	
	5/24～25 大豆収穫(期前)	
	6/2～6/15 大豆収穫(本場)	
	6/9 総代会	議案所
	6/13 通常総会	集荷センター
	7/3 平使用米総集	
	7/19 本場集荷	
	8/19～22 大豆収穫(本場)	
	8/29～9/11 大豆収穫(大豆)	
	8/12 法人総代会	高津農センター
	8/16 ホールクロップ刈取	
	8/19～19/21 棚か	
	10/29～31 ホールクロップ刈取	
	11/9～20 大豆集荷	
令和5年	1/4 議事会	議案所
	2/10 議事会	議案所
	2/28 議事会	議案所
	3/4 議事会	議案所
	3/27 議事・マシ総議	
	3/27 議士総議	
	4/1～2 水稲播種	
	4/7 議事会	議案所
	4/19～20 大豆肥料散布	
	4/22 全体会議	集荷センター
	4/29～30 代議者	

# これまでの活動内容②

## ○栽培技術向上支援（さつまいも・土地利用型作物）

### さつまいも

- 施肥、排水性改良指導
- 定植作業指導
- 巡回指導（雑草及び病害虫防除）

品種・定植日：

ベにはるか（約3,000本）・ 6/11～  
6/13

コガネセンガン（約150本）・ 5/26

排水改良：カットブレーカー →2/27  
                  カットドレーン       →5/17



排水対策  
（カットドレーン）  
1.5m間隔×深さ  
45～50cm



定植作業指導  
黒マルチ幅135cm  
→95cmに改善<sup>1</sup>?



## さつまいも生育の様子 (8/10)



コガネセンガン



ベにはるか



# これまでの活動内容②

○栽培技術向上支援（さつまいも・土地利用型作物）

## 土地利用型作物

- ・雑草発生状況確認
- ・防除方法の打合せ
- ・巡回指導（雑草防除の実施）

### ワルナスビ

- 小麦ほ場（開田）で多く発生
- ほ場内では、小麦品種切り替えのため、全面農薬散布予定（2～3回）
- 法面からの侵入防止のため、遮光シートや局所的農薬散布による対策を検討



大豆・小麦  
巡回指導



防除方法の  
試験検討

# 今後の活動予定

## ○経営管理能力向上支援

- 経営管理研修会の開催
  - 財務諸表の活用方法、経営目標の策定
- 経営管理シミュレーション
  - 開田面積の増減による収支への影響、  
外部専門家による従事分量配当予想シートへの活用指導
- 次年度計画作成支援（事業計画、営農計画、収支計画等）

## ○栽培技術向上支援（さつまいも・土地利用型作物）

- 巡回指導（さつまいも収穫前作業等）
- 収量調査、販売実績調査、次年度方針の検討
- 雑草防除方法の試験とフィードバック、今後の対策の検討